

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1~P6 令和6年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント
P7~P10 各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催

令和6年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント

令和6年度日臨技学術奨励賞の受賞者が発表され、第73回日本医学検査学会にて表彰式が行われました。受賞者の皆様よりいただいたコメントをご紹介します。

優秀論文賞

表彰の前年に発行された会誌「医学検査」に掲載された優れた論文（原著、研究）に対する表彰。また、この優秀論文賞のうち特に画期的な1編を「最優秀論文賞」として表彰する。

最優秀論文賞

『尿中硝子円柱生成機序の解明』

星 雅人

藤田医科大学

この度は、日臨技学術奨励賞 最優秀論文賞の栄誉に浴し、身に余る光栄に存じます。関係各位の皆様並びに御推薦いただきました先生方に心より御礼申し上げます。



本論文は、尿沈渣中に出現する硝子円柱の生成機序について、最新の基礎研究機器を用いて初めてその一端を解明したものです。今後このように基礎研究を通して尿沈渣成分出現の本質を理解することで、新たな臨床的意義付けを可能とし、患者さんへの貢献が期待されます。

この栄誉は、私ひとりの力ではなく、藤田医科大学病院臨床検査部の皆様、大学院生、卒業研究生および前職である鈴鹿医療科学大学の先生方や卒業研究生皆さんの御支援の賜物と思っております。今回の受賞を励みに、引き続き真摯に研究に取り組んでいく所存でございます。

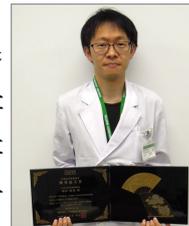
今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願いたします。

優秀論文賞

『フラグメント解析によるCALR遺伝子変異検出の性能評価と変異アリル頻度測定に関する検討』

根岸 達哉 信州大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。宮島会長をはじめ日臨技理事の皆様、選考委員の皆様、学会関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。



本研究では、フラグメント解析によるCALR遺伝子変異検出の性能評価と変異アリル頻度測定の意義について検討を行いました。CALR遺伝子は本態性血小板血症、原発性骨髄線維症の原因となる遺伝子変異です。フラグメント解析での本遺伝子変異の検出は、実際の臨床検査でも有用と考えられ、本論文が参考になるようなことがあれば大変うれしく思います。

今回の受賞を励みに、日常業務や研究活動を通して、より良い臨床検査につながるよう精進したいと思います。

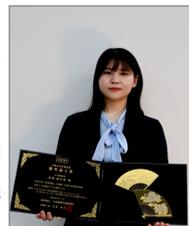
優秀論文賞

『PML-RARAを伴う急性前骨髄球性白血病 (microgranular type) およびCBFB-MYH11を伴う急性骨髄性白血病におけるCD2抗原の有用性』

高屋 絵美梨

市立函館病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞という名誉ある賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。



近年、造血器腫瘍の病型分類や確定診断においてはフローサイトメトリー検査や遺伝子検査の重要性が高まっております。本研究は、白血病のうち形態学的所見のみでは別病型との鑑別が困難とされる2病型について、CD2抗原の発現に着目し、早期の病型推測と診断確定・治療開始に繋げることを目的としています。CD2抗原は自施設のみならず外部委託の検査パネルにも組み込まれており、初回依頼時の結果にて発現の有無を確認できると考えられます。

最後に、本論文の執筆にあたりご指導・ご支援を賜りました市立函館病院中央検査部の皆様へ心より感謝申し上げます。

今後も臨床検査分野の知識・技術向上を通して医療に少しでも貢献できるよう、日々精進してまいります。

優秀論文賞

『呼吸器材料より分離された *Streptococcus pneumoniae*の肺炎球菌ワクチン 導入前後の血清型および薬剤感受性の比較』

鞠子 文香

順天堂大学医学部附属 順天堂医院

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出していただき、大変光栄に存じます。宮島会長はじめ選考委員の先生方、並びに学会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本論文は、*Streptococcus pneumoniae*の侵入門戸となり得る呼吸器材料に限定し、ワクチン導入前後での血清型と薬剤感受性を比較いたしました。呼吸器材料由来株の*S. pneumoniae*はワクチン導入後もNon typeや非ワクチン型の頻度が上昇しており、PRSPの頻度が依然として高く、今後、耐性度が高い血清型の台頭が懸念されます。一方で、Non typeの増加は鈎菌・同定に大きく影響するため検査室での適正な検査と薬剤感受性結果を踏まえた抗菌薬選択が重要だと考えます。今回の受賞を励みとし、今後も臨床検査技師として医学に貢献できるよう、更なる高みを目指して取り組んでいきたいと思っております。

最後に、この賞はご指導いただいた先生方や先輩方、また検討に協力していただいたスタッフの皆様ののおかげで受賞することができました。心より感謝申し上げます。

優秀論文賞

『Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) 法用に開発された外因性コントロールの臨床検体に対する反応性』

渡辺 直樹

医療法人鉄蕉会 亀田総合病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀論文賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。Loop-mediated isothermal amplification (LAMP) 法の精度管理に関する研究成果が本賞に選ばれたことを、心より嬉しく思っております。



LAMP法は、感度と特異性に優れた核酸検出検査であり、臨床診断において重要な役割を果たしています。一方で、内部コントロールの不足が課題でした。私達は、臨床検体を用いて新規開発された外因性コントロールを評価し、その内容を論文で報告いたしました。本研究が進展することによって、より正確なLAMP法の結果報告に寄与できると考えております。

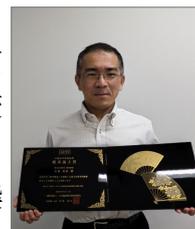
この受賞は、研究実施と論文執筆にご協力いただいた皆様のおかげであり、ご協力くださった方には心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も、より臨床検査の発展に貢献できるように努力してまいります。

優秀論文賞

『公開データからの臨床検査技師業務の需給予測』

古賀 秀信 株式会社麻生 飯塚病院

この度は、拙著を日臨技学術奨励賞 優秀論文賞に選出していただき、大変光栄に存じます。推薦していただきました日本臨床衛生検査技師会並びに選考委員の先生方に、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



本論文は公開データのみを用いて、今後の臨床検査に関する需給予測を行ったものです。研究には限界もありますが、人口減少や少子高齢化、AI・ITなど外部環境の急速な変化がもたらす影響を知るきっかけとなりました。

最後に、今回の受賞は共著者の皆様をはじめ、関係者のご支援・ご指導の賜物です。心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

表彰の前年に日本医学検査学会にて発表された優れた演題に対する表彰。また、優秀演題賞のうち特に優秀な1題を「最優秀演題賞」として表彰する。

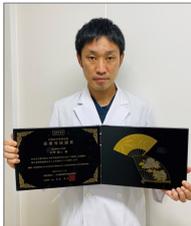
最優秀演題賞

『尿沈渣検査における判定成分の陽性率を用いた技師間差評価および是正指標の検証』

石澤 毅士

慶應義塾大学病院

この度は、日臨技学術奨励賞 最優秀演題賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ、心より厚く御礼申し上げます。



尿沈渣検査の診療データの二次利用による精度管理手法は、従来から研究されてきましたが、その煩雑さから導入が難しい状況でした。本演題では、簡便な方法で各技師の判定傾向を可視化し、技師間差を是正することで、尿沈渣検査の品質向上に寄与できたと考えています。この手法は尿沈渣検査に限らず、他の形態学的検査にも応用可能です。しかしながら、この精度管理手法には課題はまだ多く残っています。今後もデータの蓄積を進め、尿沈渣検査の精度管理にさらなる貢献を目指してまいります。

最後に、今回の受賞は職場のスタッフ・先生方のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

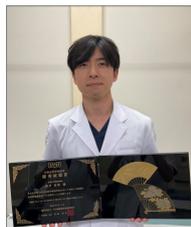
優秀演題賞

『Real time PCR 法を用いた KMT2A-ELL キメラ遺伝子の検出について』

国井 拓弥

筑波大学附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方、並びに学会関係者の皆様、発表に協力してくださった皆様に心より御礼申し上げます。



キメラ遺伝子によって発症した白血病の場合、原因遺伝子の定量検査をすることがもっとも治療効果の判定に適していますが、発症頻度が低いものなど、キメラ遺伝子の種類によっては難しいことが現状です。今後も継続的に研究活動を行い、患者さんに適切な診断及び治療ができるよう取り組んで参ります。

最後に、今回の受賞はご指導賜りました当院検査室の方々のご支援とご協力のおかげです。この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『試薬管理システムの開発と導入（第2報）IS015189に対応した試薬管理について』

井上 卓

地方独立行政法人 静岡県立病院機構
静岡県立こども病院

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選定していただき、大変光栄に存じます。選考委員の皆様ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



当院では、IS015189に対応した試薬管理として、GS1バーコードとExcel VBAを活用した試薬管理システムを独自に開発・導入しました。GS1バーコードとExcelという既存の情報資源を活用することで、導入コストを抑え、試薬管理における従来の課題であった目視確認や手書き記録をなくし、バーコードの読み取りのみで詳細な管理記録を可能にしました。これにより、正確性向上と業務効率化を両立させました。

今後は、システムの汎用性を高め、GS1バーコードといった情報資源の認知度向上と利活用促進を図り、ITへのタスクシェアという考え方を浸透させていくことで、管理・運用の発展に寄与し、検査の質向上と医療DXに繋げていきたいと考えています。

最後に、本研究をご指導、ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『不規則抗体陽性例にみる輸血部門臨床検査技師のチーム医療としての役割』

芝田 大樹

浜松医科大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞にご選出いただき誠にありがとうございます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。



今回の発表は、不規則抗体検査をきっかけに、我々臨床検査技師の情報提供のもと、AIHAの診断に至った経験から、輸血部門の臨床検査技師としてのチーム医療での役割を検討したものです。昨今、タスク・シフト/シェアの推進がされる中で、臨床検査技師もチーム医療の一員として活躍することが求められています。今回の症例のように、日常の検査業務からでも、専門的な知識を発揮することでチーム医療への参画が可能だと考えます。各施設における輸血部門臨床検査技師の在り方に少しでも参考になれば幸いです。ま

た、私自身も今回の受賞をきっかけに、これまで以上に日常業務を軽んじることなく真摯に向き合う所存です。

最後に、発表の機会をいただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

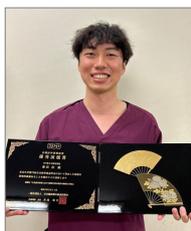
優秀演題賞

『日当直者研修における 標準作業手順書の動画化の効果』

會田 匠

NTT東日本関東病院

この度、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞を受賞できたことを大変うれしく、光栄に思っております。また学会関係者ならびに選考委員の皆様へ深く感謝申し上げます。



従来、当院では日当直業務の研修に標準作業手順書を用いて説明を行っていましたが、日ごろ機器の操作に不慣れなスタッフに対して、文字と写真で内容を十分に理解してもらうには多くの時間を要していました。そこで「動画化」に着目し、本演題のタイトルにもある動画を手順書に活用したことで、説明後のスタッフの理解度の向上と、教育に要する時間短縮につながりました。

今後とも動画を効果的に用いることでスタッフの理解度・満足度の向上と、標準的な手技で検査が実施できるよう取り組んでまいります。

最後に、本演題の発表にあたり、多くの職場の方々へ協力いただきました。この場をお借りして深謝いたします。

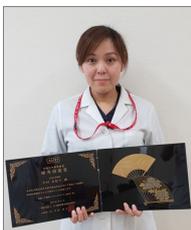
優秀演題賞

『白濁固化したクリオグロブリン血症の一例』

中村 友紀子

広島大学病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選出いただき大変光栄に存じます。選考委員の先生方、学会関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



本演題で発表した症例が精査に結び付いたきっかけは、白濁固化という通常とは異なる検体性状に対し、先輩技師からの「温度依存性変化を確認してみては？」の一言からでした。

検体検査はオートメーション化が進み、検査データに関わる様々な要因に気づきにくい現状です。基本に立ち返ることの重要性を改めて認識いたしました。今回、臨床側と検査結果について連携ができたことで診断に結びつきました。今後も患者に関わるチームの一員として、わずかな疑問に一つ一つ向き合いな

がら精進してまいります。

ご指導、ご協力をいただきました皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

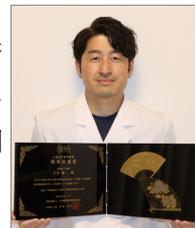
優秀演題賞

『分離培養検査24時間化と 質量分析装置の導入と効果』

吉田 勝一

前橋赤十字病院

この度は、日臨技学術奨励賞 優秀演題賞の栄誉を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ心よりお礼申し上げます。



本演題は、感染症診療における最適治療の迅速化と抗菌薬適正使用対策として導入した、分離培養検査24時間化と質量分析装置の効果を検証し報告しました。分離培養24時間化は薬剤感受性試験結果を含めた報告日数短縮、質量分析装置の導入は最適な抗菌薬変更までの日数短縮に効果を認めましたが、より効果を高めるためには、培地上の集落形成を速める検査体制が極めて重要であると考えられました。この報告を通して、各施設様の業務改善における一助となりましたら幸いです。

今回の受賞を励みに、臨床検査技師が感染症診療ならびに抗菌薬適正使用に貢献するため、医学検査のさらなる発展のためにより一層精進してまゐる所存です。今後とも、御指導、御鞭撻の程、よろしく願いいたします。

優秀演題賞

『V5, V6 誘導でR波低電位の心電図に関する研究 —左側胸水貯留例と健常者の鑑別が可能か?—』

平松 花奈

社会医療法人 岡村一心堂病院

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 優秀演題賞に選出いただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに学会関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。



本演題では、V5、V6誘導におけるR波低電位の心電図を解析することにより、左側胸水貯留の有無を1枚の心電図で鑑別できる簡単な指標です。1枚の心電図で鑑別できるため、前回値のない患者でも胸水の有無を推測できます。一般的に心不全の診断は心電図で困難とされていますが、私どもは心電図を詳細に解析することにより、心不全の推定が可能ではないかと考えています。この研究もその一環です。

今回の受賞を励みに、今後も1枚の心電図から鑑別できる指標について研究に励みたいと考えています。

最後に、今回の受賞は職場ならびに関係者の方々、共同演者のご支援とご協力のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『血液疾患疑いで当院に来院し重症熱性血小板減少症候群（SFTS）と診断された1症例』 吉原 亜紀 松江赤十字病院

この度は日臨技学術奨励賞 優秀演題賞という名誉ある賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の皆様を始め、学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、特に東日本では症例数が少なく診断にまで至らずに不明熱として扱われてしまっている症例も多くあると思われます。今回の発表を通じて少しでもSFTSが早期に診断され、症例集積・治療薬開発にささやかながら貢献できたら幸いです。また、発表を通じて骨髓像・末梢血液像の鏡顕や日常にありふれた検査データの重要性を改めて実感した次第です。

今回の受賞を励みに、検査業務に引き続き尽力を注いでいきたいと思っておりますので、今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしく願いいたします。

最後にご多忙の中、御指導、御協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

す。

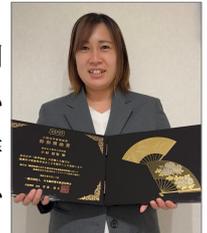
子宮頸部擦過細胞診に対する液状化検体細胞診（liquid-based cytology；LBC）は高額な専用機器の購入などの費用面の問題から日本では導入が進んでいないのが現状です。本研究で導入した専用機器を用いない手法LBCは費用面の問題を解決することはもちろんのこと、検査の品質向上や業務の簡便化、医療安全に貢献しうると考えております。本研究を通して、中小規模の病理検査室でのLBC導入の参考になりましたら光栄です。

末尾ではございますが、本研究をご指導、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『臓器移植における補体依存性細胞傷害試験において偽陽性を示す抗CD20モノクローナル抗体の検討』 小林 悠梨 東京女子医科大学病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞という名誉ある賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



本論文では、CDC-XM法においてRituximabによる偽陽性反応を回避するプロトコルを考案し、追加実験を行いました。今回自施設で導入したBright spotによる二値化法は、検査精度が担保され、初心者でもCDC-XM法の結果判定が容易になったと考えられ、今後の移植医療において有効な手法となればと思っております。

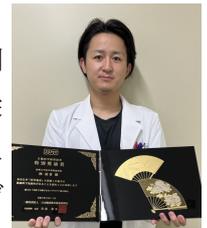
今回の受賞を励みにし、今後も臓器移植検査の発展により一層精進してまいります。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導、ご協力していただいた皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『当院で分離されたマラセチア属の解析』 柳 政希 宮崎大学医学部附属病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の皆様ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



マラセチアは癬風や脂漏性皮膚炎など様々な疾患に関与します。この菌の特徴として脂質要求性があり、従来の培養法では分離が困難な菌でしたが、専用培地により培養することが可能になりました。しかし、マ

特別奨励賞

満35歳以下の正会員による学術成果を対象とし、表彰の前年に日本医学検査学会に発表された演題若しくは、会誌「医学検査」に掲載された論文で、独創的かつ将来性があると認められたものに対する表彰。

特別奨励賞

『子宮頸部擦過細胞診に対する 用手法liquid-based cytology導入と 適用可能性についての検討』

瀬戸口 知里 大森赤十字病院

この度は、日臨技学術奨励賞 特別奨励賞を授与していただき心より感謝申し上げます。名誉ある賞の受賞を大変嬉しく思うと同時に、身の引き締まる思いです。宮島会長はじめ学会関係者の皆様、選考委員の皆様には深く御礼を申し上げます。



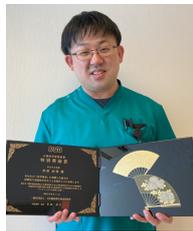
ラセチアの分離状況に関する報告は少なく詳細は明らかになっていませんでした。本研究では専用培地による培養と分子生物学的手法による菌種の同定を行い、検査材料別の菌種の検出状況や分離頻度について解析を行いました。今後は質量分析装置を用いた簡便かつ迅速な同定ができるよう研究を進めたいと思います。

最後に、研究の遂行、論文の執筆にあたりご指導ご協力いただきました当検査部スタッフの皆様へ心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『臨床検査技師による救急救命士および救急隊員のための心電図教育-島根県内の消防本部に所属する救急救命士と救急隊員を対象としたアンケートによる現状と改善-』
杉原 辰哉 松江市立病院
(現所属 島根大学医学部附属病院)

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞 特別奨励賞に選出していただき大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに関係者の皆様へ厚く御礼を申



申し上げます。

本論文は病院前12誘導心電図 (Pre-Hospital ECG) をテーマにしたものです。しかし島根県では都市部と比べて十分に浸透していないのが現状です。今回、院内の研修に来ていた救急救命士および救急隊員への心電図講義を看護師から依頼されたことから始まり、最終的にZoomを用いて島根県全体を対象とした教育機会を得ることができました。これは多職種の協力なしには実現し得なかったことです。またアンケートを通じて異なる職種の視点を知ることができ、私自身の知見が広がったと同時に新たな問題点も見えてきました。改善点を見出し次の教育へと繋げていきたいです。

最後に、本研究でご協力いただいた島根県内消防本部に所属する皆様や御指導いただいた方々に感謝申し上げます。

第74回 日本医学検査学会



2025年 5/10(土)・11(日)

グランキューブ大阪(大阪国際会議場)

+α ~臨床に貢献できる検査技師とは~

学 会 長 湯田 範規 独立行政法人労働者健康安全機構 山陰労災病院 中央検査部
実行委員長 藤井 和晃 公益財団法人 鳥取県保健事業団 健診事業部

主 催 一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 担 当 一般社団法人鳥取県臨床検査技師会

各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催

石川県金沢市で開催された第73回日本医学検査学会に先立ち、令和6年5月10日に各認定制度のスキルアップ研修会を開催しました。全国学会に併設する各認定制度のスキルアップ研修会は毎年恒例となっています。本年も7つの認定制度のスキルアップ研修会が現地開催で行われました。また、一部の認定制度では現地参加前にオンデマンド配信の視聴を必須とすることで、より理解を深めていただける内容となりました。

現地開催された7研修会を受講した皆様の感想をご紹介します。

認定一般検査技師制度

行列のできるスキルアップ研修会Part X III

グループワークで考える病態(尿検査・寄生虫)



中川 禎己

令和6年4月13日(土)～5月7日(火)オンラインで事前講習、5月10日(金)現地開催の二部制で行われた行列のできるスキルアップ研修会に参加した。

オンラインでは菊池春人氏より「尿検査における病態解明へのステップ」、松村隆弘氏より「寄生虫の形態・カルタ解説」の講演があり、各部門の基礎から応用まで学ぶことができた。現地開催では横山千恵氏より「鉛中毒による腎障害・Fabry病」、川満紀子氏より「TINU症候群」、山下美香氏より「MCNS」の4症例をグループディスカッションで考察し解説がされ、小林浩二氏より「食品媒介寄生虫について」、松村隆弘氏より「寄生虫カルタ大会」が行われた。

病態を推測するうえで、尿検査データを軸に様々なデータを活用し、総合的に判断することの重要性を再認識できた。またグループで考察することで自分にはない症例へのアプローチの仕方や、個人個人が大事にしている武器・考え方を学ぶことができた。寄生虫検査は件数が少ない現状だが、だからこそ自分達から学び、備えておくことの重要性を感じた。特に寄生虫カルタは楽しく学ぶことができ良かった。今回、学術的な面での向上や再確認ができたが、何より感じたのは学術面だけでなく、コロナ禍が明け一般検査が好きの方々が集まり、対面で繋がり学び合うことの楽しさや素晴らしさを実感することができた研修会であった。

開催に関して尽力くださいました運営委員の方々並びに会場関係の方々、また同じグループで関わってくださった方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

畠山 和枝

今年行列のできるスキルアップ研修会は「グループワークで考える病態(尿検査・寄生虫)」をテーマに事前学習のオンデマンド受講後、現地で主にグループワークを行いました。講演1『尿検査 病態を考えてみよう』では4症例について尿定性、尿沈渣より考えられること、他の検査データから考えられることを話し合いながら行い、固定概念で病態推定するのではなく、様々な角度から柔軟に病態推定を行う必要性を痛感しました。講演2『食品媒介寄生虫とその周辺～近年の傾向と今後』では公衆衛生の向上により検査依頼がない現状ではありますが、やはり知識としてしっかり覚えておくポイントを再確認しました。講演3『寄生虫カルタを実践してみよう!』では今話題の寄生虫カルタを用いて、まるで百人一首をやっているような白熱した大会となりました。

コロナ禍でWeb研修会が主流になりつつありましたが、今回のグループワークによって他の受講者の方と交流ができ、とても有意義な研修会でした。講師の先生方や運営の皆様ありがとうございました。

認定心電検査技師制度

行列のできるスキルアップ研修会Part X III

サステナブルな知識をECGsから一緒に学ぼう!

～心電図判読セッション～



山口 文苗

昨年度試験に合格し、認定心電検査技師として初めてスキルアップ研修会に参加しました。レスポンスシステムを用いた受講者参加型研修会のため、リアルタイムに心電図波形を判読して短時間で答えを導き出す必要があり、緊張感を持ちながらも楽しんで受講することができました。これまである程度は心電図波形が読めるようになった気でしたが、知識があいまい

で、なぜそのような波形になるのか理解していなかった点が多く、勉強不足を痛感しました。日頃から波形を見るだけでなく患者背景に注目したり、心臓がどのような状態になっているか想像したりすることが、心電図の判読力向上に重要だと実感しました。新しく得た知識については、その機序を理解して定着させるだけに留まらず、後輩の指導にも役立てたいと思います。今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

長谷川 直緒

今回行列のできるスキルアップ研修会に初めて参加しました。「サステナブルな知識をECGsから一緒に学ぼう！」というテーマの元、心電図を判読していきました。

今回の研修会では難しい問題がたくさんありました。心電図を記録する際、パニック所見なら直ぐに報告しますが、患者さんの背景や採血データを見て確実な診断に繋がっていきます。虚血・不整脈心電図波形の特徴や鑑別に至るまでのフローチャートなど分かりやすく教えていただきました。他にも、心電図波形・心臓エコー図から読み取れる疾患、病態における心電図波形の特徴など詳しく知ることができました。

今回の研修会を通じ、このような機会を得た知識をそのためのものにせず、しっかり本質を理解することでサステナブルな知識として吸収していくことが大事だと思いました。今回学んだことを活かし、日々の業務に邁進していきたいと思えます。貴重なお時間をありがとうございました。



認定病理検査技師制度

行列のできるスキルアップ研修会Part X III

切出しに必要な知識と技能の習得

小川 命子

今回のテーマは、「切出し業務」で、切り出しに必要な知識と技能の習得を目的としています。切り出し業務は、病理のタスクシフトにも掲げられ、是非参加してみたいと思い申込みました。今回は、最初にオンデマンドで講義を視聴してから受講するので、講義内容の理解が大変深まりました。

田原先生の「マクロ写真を用いた切り出しの実際・断面写真を用いた割線図の実際」では、大腸癌、子宮体癌のマクロ写真に切り出し線を入れ、切り出し図を完成させることをグループワークで行いました。他施設のメンバーと話し合いながら、疑問点があれば、ファシリテーターや講師の先生方にアドバイスもいただけて勉強になりました。

先生の解説で、大腸の切り出しの方法は浸潤巢により切り出し方を変えるなど、奥深い知識の習得にもなりました。

阿部先生の「臨床検査技師による手術材料の切り出し業務～はじまりとこれから～」では、切り出しのトレーニングや定期評価などの教育方法や技術を維持させることに力をいれ当院でも参考にしたいことが多く

ありました。切り出し確認テストでは、病理医がコメントを書いてくれるなど医師の協力体制も素晴らしいと感じました。また病理医とのコミュニケーションが最も大事なのだと痛感いたしました。今後もこの講習会で学んだ知識を活かして業務に励みたいと思います。

藁科 俊介

今年のスキルアップ研修会は「切出しに必要な知識と技能の習得」というテーマで、3つの講演が行われました。

「外科切除検体における切出しと病理診断の意義」では、切出しの本来の目的と低侵襲性の切り出しの特徴について講演いただきました。切り出しの目的は、診断の確定と断端の確認をすることだと私自身考えていましたが、治療方針の決定のために行うのだと考えが一変しました。

「臨床検査技師による手術材料の切り出し業務」では、切出しを技師が始めた経緯・準備と今後の取り組みについて講演いただきました。切出しマニュアルの作成や技術の維持のための確認テストなど当院でも導入できることがあり大変参考になりました。

「マクロ写真を用いた切出しの実際・断面写真を用いた割線図の実際」では、マクロと断面写真に線を入れるグループワーク実習でした。時間いっぱいまで話し合いが行われる熱量の高い実習でした。

私は、まだ切出し業務を行っていませんが、当院でも切出しを技師が担当する日があり、今後に向けた勉学の良い機会でした。



認定臨床化学・

免疫化学精度保証管理検査技師制度

行列のできるスキルアップ研修会 Part X III

持続可能な臨床化学・免疫化学を考える

松林 秀弥

今回の研修会では講演1「是正処置を考える」講演2「臨床検査室の管理運営の視点で考える」講演3「精度管理を極める」の各講演でグループワークを行い、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師に期待される役割や必要な知識を学びました。提示された事例に対して、自施設ではどのような是正処置を実施するか、迅速性や効果、コスト面を考慮すべきなど多くの意見が挙がり、活発な意見交換が行われました。各施設の特徴や規模などによって考え方も異なり、グループワークを通じて、様々な視点を知ることができ大変貴重な経験ができました。また、同じグループの参加者と日頃から精度管理で困っていることや、運用方法、教育体制のことなど、限られた時間を活用して課題以外の内容について情報共有や議論ができ、日常の業務へ活かせる内容が盛り沢山で有意義な時間となりました。

最後になりますが、研修会を企画・開催してくださいました運営の方々、ご多忙の中ご指導いただきました講師の先生方に深く感謝申し上げます。

福田 賢一

昨年、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度の資格を取得しました。本研修会は、同資格更新用の指定講習会であり、第73回日本医学検査学会の前日ということもあり参加させていただきました。

本研修会はオンデマンド形式の事前講習とその内容に沿った現地グループワークでの開催でした。コロナ禍の影響でしばらく行われていなかったグループワークには不安もありましたが、全国から集まった参加者の皆様と精度管理の実際について話し合うことができ、貴重な時間となりました。今後も臨床化学・免疫化学検査の理想像の実現に向けてモチベーションを保ち、努力を続けたいと思いました。

また、やはりグループワークは講習と異なり参加者同士の交流ができるため、情報交換の場としても非常に有意義だと感じました。今後は、もっと時間の長いゆっくりとした参加者同士の交流ができる研修会があればいいなと思いました。

最後に、本研修会の企画・運営に携わった方々に心から感謝申し上げます。

医療技術部門管理資格認定制度 行列のできるスキルアップ研修会 Part X III

医療DX人材実践講座

『臨床検査技師から医療DX人材への変貌』

古井 郁恵

今年のスキルアップ研修はデジタルトランスフォーメーション (DX) をテーマに、これからの医療・介護の在り方や働き方改革について考えました。

セッション1では、DXに関する基礎的知識と医療DXの実践例を講師に学び、「DXで臨床検査がどう変わるか？」についてグループワークを行いました。

セッション2ではベンチャー企業の講師から、看護師向けメンタルヘルスサービスアプリ「ナースビー」の概要や開発経緯などをお聞きました。心のケアを行う上司や管理者らには、「傾聴」・「受容」・「共感」の姿勢が大切だと学びました。

その後のワークショップでは、臨床検査技師のメンタルヘルスについて、DXによる新しい対策を検討。私たちのグループは、個々の仕事量や仕事に対する評価差がメンタル不調を誘引するとの観点から、上司の主観に頼らない、客観的な人事考課ツールの開発を検討しました。

臨床検査の仕事は今後、人とAIが互いに不足する能力を補い合う形に変化していくと予想されます。研修は、そうした時代に人間だからこそできる仕事とは何かを考える機会となりました。これからもスキルを身につけ成長できるよう、日々自己啓発していこうと思います。

鈴木 香織

学会開催前日に認定のスキルアップ研修が開催される。認定ホルダーの皆さんにとってはこのスキルアップ研修への参加が学会スタートとなっていることでしょう。

医療技術部門管理者認定は資格取得者が2024年4月現在では54名と増加しているものの、他の認定に比べると絶対的人数が少ない。そのため、この認定のスキルアップ研修には一定数の資格を有していない会員の方も参加されるのが特徴的である。

研修会で取り上げる内容も他の認定とは異質であり、昨年は「VUCA時代にむけたSF思考」今年「Chat GPTを利用したメンタルヘルス」という題名だけ聞くと一体何をやる研修？という疑問符しか浮かばない。また研修時間も13時30分から18時40分という長時間にわたる。こんな研修会誰が参加するのかと表向きは感じるが、実際の研修では目から鱗と驚く場面が多い。メンタルヘルスは管理者にとっては必要不可欠であり、検査技師版の「ナースビー」の要望は大きかった。毎月のZOOM研修とは違い、リアルでともに学べる機会は貴重であり、また同じ目的を持った仲間との出会いはさらなる学びへの大きなサポートとなっている。

認定認知症領域検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会Part X III

認知症のファーストスクリーニングである神経心理学的 検査の特性や適性を理解し、実践的なスキルを学ぶ

古澤 理枝

「こんなにたくさんの技師が認定認知症領域検査技師としてがんばってるんだ!」。研修会場に到着して最初の感想でした。第2回の認定試験を受験しその後、月に数例ですが神経心理学的検査に携わってきました。しかし、相談できる仲間は同じ検査室の中で2人だけ。「これで正しい検査方法なのか?」「被験者にわかりやすい検査ができているのか?」など疑問を抱えながらやってきました。今回、地元金沢での研修会開催ということで、初心にもどってMMSEの実践的スキルの習得とMoCA-Jの検査方法について何としても受講したいという思いで参加しました。

グループに分かれ研修会がスタートし実習やグループワークを行って行くうちに、今年合格した人、今年度受験する人、研究室で認知症の予防薬の研究に携わっている人など様々な方が参加していて非常に興味深い研修会でした。実習では患者とのコミュニケーションや適切な指示の重要性を再確認できました。また、MoCA-Jの検査方法や実例を提示しながらの解釈の仕方のポイントなども教えていただきました。患者の状態をよく観察し、適切なサポートや治療を提供できるよう神経心理学的検査を実施していきたいと思っています。

田家澤 早苗

当院では、物忘れ外来の脳外科担当日はリハビリテーション科、精神科担当日は検査科が神経心理学検査を行っています。

常々、検査を実施する際に初めてお会いする方の認知機能が低下しているのか否か、本来の性格なのかを判断することはとても難しいと感じていました。もちろん、この検査だけで診断されるものではありませんが不安でした。

今回、MMSEの正確な検査方法から様々な症例対応まで実習をして検査中に取り繕い反応があることや何かしら気が付いたことを報告書に記載し医師に伝えることが大切であることを学びました。

追加検査の提案等ができればさらに価値があがります。また、点数のみではなく、どの設問ができていないのが重要で結果の解釈の仕方も学びました。

これからは、実習で学んだことを活かしながら試行錯誤を重ねて検査を行っていこうと思います。

認定救急検査技師制度

行列のできるスキルアップ研修会 Part X III

救急外来に搬送されてきた症例から初期診療に必要な知識、
データ判読を会場参加型グループワーク形式で学ぶ



福島 恵理子

令和6年能登半島地震、私の施設は基幹災害拠点病院であり、多くの救急車やヘリ、DMATが集まり、長く活動していました。私は、臨床検査技師として救急医療を学びたいと思いスキルアップセミナーに参加しました。

セミナーは、オンデマンド配信と現地にて開催され、現地開催では、搬入時のバイタルサインや、初期診療、検査データから疾患の推定や、追加検査をグループで討論し、発表するグループワーク形式でし

た。各グループには、ファシリテーターがつき、疾患の推定へどうアプローチしていくかを教えていただきました。グループ討論では、血液検査データを総合的に考えられる技師、主に生理機能検査を行っている技師、それぞれが意見を出し、そして、認定取得技師が意見をまとめ、グループでの答えを導き出すことができました。皆が恥ずかしながらも自分の意見を言い話し合うことで内容が記憶に残りました。また、グループで討論するときや、グループごとでの発表では、わかりやすく説明するノンテクニカルスキルも磨かれ良い経験ができました。

今後、このようなセミナーに積極的に参加し、認定取得やチーム医療への貢献に励んでいこうと思います。セミナー企画をしていただいた皆様、一緒にグループ討論していただいた皆様ありがとうございました。

横山 健輔

この度、金沢市でおこなわれた認定救急の研修会に参加させていただきました。私は2023年に認定救急検査技師の資格を取得しましたが、本研修会への参加は今回が初めてでした。

研修会の内容は6人グループでのディスカッションを基本とし、提示される症例に対して患者はどのような状態か、どんな疾患が疑われるのか、追加検査は何を提案するかなどを学ぶものでした。また、グループメンバーは意図的に得意分野がバラけるように組み立てられており、各分野の意見を総合して答えを探りました。これは実臨床と同じで、様々な職種がそれぞれの得意分野を最大限活かし、ディスカッションしながら患者を診療する、まさに救急に対する研修だと感じました。救急の現場において検査技師として何ができるのか、自分の中で課題はまだまだ沢山残りましたが、バイタルサインや輸血関連まで幅広く学ばせていただき、さらには同じ志を持った方々とも出会うことができました。次回も是非参加させていただきたいと思えます。

「(編集後記) 梅雨の季節が近づいてきました、近年の雨は豪雨で大変です。近年のAIなどで雨をコントロールできればと思います。農家や湖にとっては適度な雨は必要です。今年もタマネギの特産地・淡路島で収穫したばかりタマネギをつるす作業が進んでいます。タマネギ小屋が点在する景観は島の風物詩として知られています。近年は高齢化が進み、重労働のつるす作業やめる農家も増えつつあります。私たちの業界も同様ですが未来に夢がもてるよう工夫しましょう。(綿貫)